Ⅲ 70年間の主要な成果

樹木のふやし方

ー樹木288種について増殖方法を解説ー



掲載内容

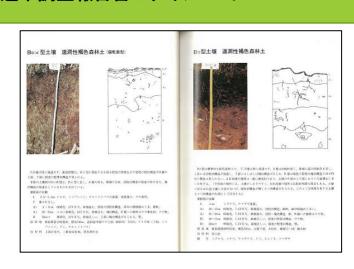
- ① 掲載されている樹種の名称
- ② 樹種別の繁殖方法
- ③ 実生繁殖の方法と種子粒数
- ④ 挿し木の方法

昭和55年に、岡山県をはじめ、関西地区の19の国・公立林業試験研究機関が協力し、緑化用樹木288種の増殖方法を幅広く研究した成果を1冊にとりまとめたもので、発刊から現在に至るまで、活用されている。

岡山県の林野土壌

一適地適木調査報告書のダイジェストー





林地の利用形態が多様化してきたことから、林地の基本的な特性を把握するため、県内の民有林を中心に、昭和30年~昭和52年の23年間にわたって土壌調査を実施し、昭和55年にとりまとめた。県内の自然条件のほか、林野土壌、森林立地区分、林地生産力など、造林の必須情報が解説され、適地適木の選定に利用されている。

花粉症対策品種の種子生産

一少花粉スギ・ヒノキの開発と採種園の整備一





国民の4割が罹病している花粉症に対応するため、花粉の飛散を低減させる取り組みを展開している。その一つとして、成長や形質に優れた精英樹から、花粉の少ない品種を選抜し、いち早く少花粉スギ・ヒノキ採種園を整備した。そして、平成27年度から、少花粉品種の種子供給を開始している。

抵抗性マツの育成

一松林を再生ー





昭和40年代から松くい虫被害が拡大したことから、昭和52年より、国・県の共同プロジェクトとして、マツノザイセンチュウに抵抗性を持つマツの選抜を開始した。県下の被害林から被害の無い木を探し出した後、予備選抜、候補木選抜、二段階の接種検定を経て基準を合格した抵抗性木を、「抵抗性マツ」として決定し、これらを基に採種園を造成後、県下に種子を供給している。

岡山甘栗の開発

一国産甘栗の開発とその普及一





国産の甘栗として、平成20年に品種登録し、「作州栗」、「岡山甘栗」として普及し、勝英地域で産地化が進んだ。現在、約 9,000 本が植栽され、栽培面積は26ha に及んでいる。苗木は県内外で販売されるほか、栽培マニュアルも刊行されたことから、着実に生産が拡大している。

マツタケ菌の新規培養技術

ーアカマツ特有のデンプンを使う一





アカマツの根から、特有のデンプン(赤丸部分)を分離し、栄養源として、マツタケ菌を培養したところ、菌糸束を形成し、気中に伸長した。この技術は、マツタケの人工栽培に繋がるものとして、特許を取得した。(特許第 6221039 号)

木材の新規乾燥方法と乾燥装置の開発

一高品質乾燥材の生産方法ー



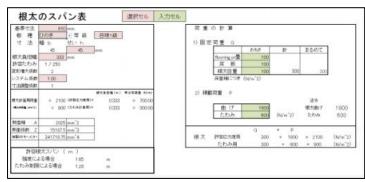


この技術は、従来の高温乾燥法に対し、加熱・減圧・加湿条件を適切に調整することにより、木材の変色や内部割れなどの劣化を抑制し、高品質な乾燥材の生産を可能とするもので、県内の製材メーカーで実用化されている。(特許第 5900793 号)

岡山県産構造用製材のスパン表の作成

一岡山県産材による安全・安心な住宅を設計する一





木材強度データを誰でも利用できるよう、今まで蓄積してきた主要樹種の強度データを用いてスパン表を作成した。このスパン表は MS-Excel のワークシートで作成しており、森林研究所 HP で公開している。